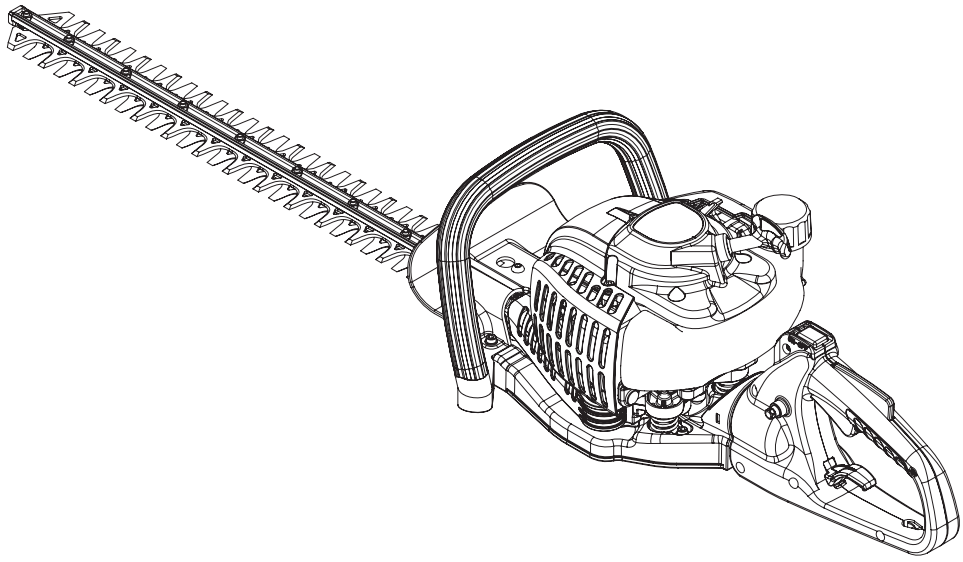
KIORITZ

共立ヘッジトリマー iスタート

HTE600W

取 扱 説 明 書



（社）日本陸用内燃機関協会
小形汎用エンジン
排出ガス自主規制適合証

警 告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

重要なお知らせ

製品をご使用になる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

❍ 製品の使用目的

- **この製品は２サイクルエンジンヘッジトリマーです。枝の直径が６ mm 以下の生垣や植込の剪定、刈込作業に使用してください。目的以外に使用してはいけません。**

❍ 製品の使用者について

- **この製品は取扱説明書をよく読んで十分に熟知した人が使用してください。**
- **取扱説明書をよく読んでいない人、風邪や疲労など体調のよくない人、１６歳未満の人は製品を使用しないでください。**

❍ 取扱説明書について

- **本書には、製品の操作、点検・整備に必要な事項が書かれています。よく読んで理解してください。**
- **本書はいつでも読めるように必ず保管してください。**
- **本書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。**
- **単位は ＳＩ 単位（国際単位系）を使用しています。（　）内は参考値ですので若干の換算誤差がある場合もあります。**

❍ 製品の貸与、譲渡

- **本書で解説している製品を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書とともに製品を貸与してください。製品を譲渡される場合は、本書を製品に添付してお渡しください。**

❍ 保証書

- **この製品には保証書が同梱されています。**
- **使用目的以外の作業による製品の故障、あるいは改造による故障の場合は、保証の対象外になりますのでご注意ください。**
- **詳しくは保証書をお読みください。**

❍ お問い合わせ先

- **この製品についての内容や消耗品のご購入、修理などのご用命はお買い求めいただいた販売店にお問い合わせください。**

❍ おことわり

- **本書の内容は、製品の改良のため予告なしに変更することがあります。また、使用している図は説明をわかりやすくするため、現品と異なる場合があります。**
- **ご不明なことやお気付きのことがございましたら販売店にご相談ください。**

❍ 製品の特徴

- **この製品はエンジン始動時に i スタート 方式を採用していますので、スタータグリップを引いたときに大変軽く引くことができます。**

目　次

安全にご使用いただくために 4
警告表示 4
その他の表示 4
シンボルマーク 4
警告表示ラベルの貼付け位置 5
燃料の取扱い 6
エンジンの取扱い 7
製品の取扱い 8

1. 梱包部品一覧 11

2. 各部の名称と機能 12

3. 作業前の準備 13
3-1. 燃料の準備 13

4. エンジンの運転 15
4-1. エンジンの始動 15
4-2. エンジンの停止 17

5. 剪定・刈込み作業 18
5-1. 後ハンドルの回動操作 18
5-2. 基本的な作業方法 19

6. 点検・整備 20
6-1. 点検・整備の目安 20
6-2. 点検・整備要領 20
6-3. 刈刃の手入れ 24
6-4. キャブレタの調整 25
6-5. スロットルケーブルの遊び調整 26
6-6. 防振スプリングの点検 26
6-7. 故障診断表 27
6-8. 長期保管（30 日以上）..... 28

7. 仕様 29

安全にご使用いただくために

製品をご使用になる前に、この章を必ずお読みください。

❍ ここに記載されている「注意事項」は、安全に関する重要な項目です。必ず守ってください。
❍ 本文の中にも重要な「注意事項」を記載していますので、必ずお読みください。

◆ 印に続く文章は、「注意事項」を守らないと起こり得る結果を示しています。

警告表示

本書や製品では作業者などが人身事故を負う危険性のある事柄を、下記の警告表示で示しています。安全作業のためによく読んで必ず守ってください。

⚠ 危険	⚠ 警告	⚠ 注意
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。	**その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。**	**その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。**

その他の表示

本書では警告表示以外に下記の表示を使って説明しています。

	**丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表します**

重要
重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている製品の使用、点検、保守、保管に関する重要な注意事項です

シンボルマーク

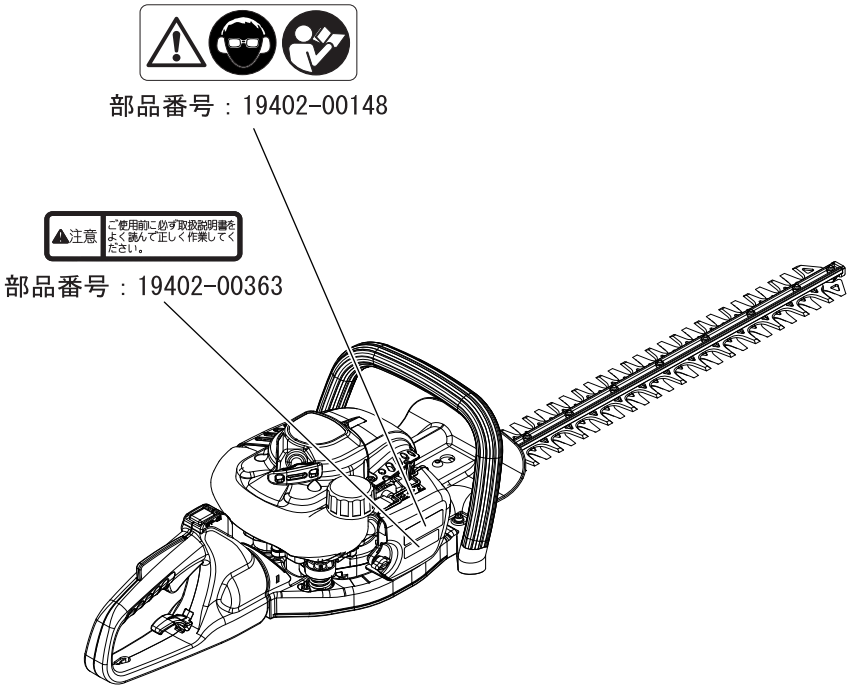
本書と製品ではシンボルマークを使って説明しています。各シンボルマークの意味を十分に理解してください。

シンボルマーク	意味	シンボルマーク	意味
	**ご使用前に取扱説明書を読み、正しく作業すること**		**電気ショックに注意すること**
	**作業中は、保護具を必ず着用すること**		**高温部に注意すること**
	**製品を通気の悪い場所では使用しないこと**		**手の切断に注意すること**
	**火災に注意すること**		**回転部の巻き込まれに注意すること**

安全にご使用いただくために

警告表示ラベルの貼付け位置

- 本書で解説されている製品には、下図の「警告表示」のラベルが貼ってあります。ご使用前にラベルの意味を理解してください。
- ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、下図に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。



安全にご使用いただくために

燃料の取扱い

この製品に使用する燃料は、レギュラーガソリンと２サイクルエンジンオイルを混合した「混合燃料」です。混合燃料の詳細は 13 ページの「燃料の準備」を参照してください。

⚠ 危険

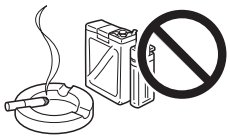
燃料給油時は火気厳禁

燃料は非常に引火しやすいので、取扱いを誤ると火災の危険があります。次の項目を必ず守ってください。

- **燃料給油中にタバコを吸ったり、火花を近づけない**
- **エンジンが熱いときやエンジン運転中は、燃料補給をしない**

◆ 燃料に引火して火災を起こしたり、火傷を負うことになります。





⚠ 警告

静電気は火災の原因

ガソリンは容器内部で揺られると、静電気を帯びやすい性質を持っています。給油時の放電による火災を防ぐため、次の項目を守ってください。

- **運搬に用いた鋼板製のガソリン携行缶は、地面に置いて静電気を逃がす。**
- **ポリミックス（別売品）で燃料を混合した後は、数分間静置して静電気のレベルを下げる。**
- **作業者は、給油前に手のひらを地面や金属などに押し当てて、自身の静電気を逃がす。**
- **製品は、ストップスイッチが停止位置のまま十分に冷えた状態になるまで地面に置き、静電気のレベルを下げる。**
- **燃料給油時に、金属製の漏斗（ろうと）を使用しない。**
- **湿度の低いときは、燃料容器や製品の燃料タンクを乾いた布で拭かない。**

◆ 静電気が燃料に放電して、火災の原因となります。

こぼれた燃料は火災の原因

燃料給油時は、次の項目を守ってください。

- **燃料は燃料タンクの口元まで入れずに、規定レベル（規定レベル表示のないものは燃料タンクの肩口）以下に補給**
- **燃料を入れすぎてあふれたり、こぼれた場合はこぼれた燃料を拭き取る**
- **燃料を給油した後は燃料タンクキャップを確実に締付ける**

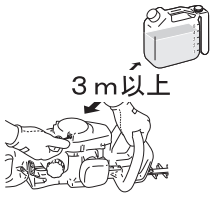
◆ こぼれた燃料に引火して火災や火傷の原因となります。



燃料補給地でのエンジン始動禁止

- **燃料を補給した場所でエンジンを始動してはいけません。エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から３ｍ以上移動してください。**

◆ 燃料補給時の漏れた燃料に引火し火災の原因となります。

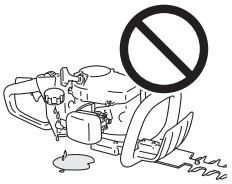


燃料漏れは火災の原因

- **燃料補給後に、必ず燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れやにじみがないかを確認してください。**
- **燃料の漏れ、にじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**

◆ 燃料漏れがあった場合、火災の原因となります。





ポリ容器での燃料運搬・保管は禁止

燃料はできるだけ使い切ってください。燃料を運搬あるいは保管する場合は、次の項目を守ってください。

- **鋼板製のガソリン携行缶で運搬・保管**
- **保管期間は１ケ月程度**
- **ポリ容器やペットボトルに燃料を入れて運搬・保管することは禁止**

◆ ポリ容器での運搬や保管は法律で禁止されており、火災の原因となります。



安全にご使用いただくために

エンジンの取扱い

警 告

エンジン始動時

エンジンを始動するときは、特に次の項目を守ってください。

- **❍ 製品を平坦で通気の良い、可燃物のない場所に置く**
- **❍ 燃料が漏れていないか確認**

◆ 火災の原因になります。

- **❍ ボルトやナット類にゆるみがないことを確認**
- **❍ 刈刃のヒビや破損。異常の場合は使用禁止**
- **❍ 周囲は広くとり、人や動物を近づけない**
- **❍ 刈刃の地面や障害物への接触禁止**
- **❍ スロットルトリガは低速位置で始動**
- **❍ 製品を地面にしっかりと押え始動操作**
- **❍ 手で持ったまま空中での始動は禁止**

◆「注意事項」を守らないと、死亡を含む傷害や事故を負う原因となります。

始動後は異常振動・異常音の確認

- **❍ エンジンを始動したら、異常振動・異常音が発生していないか確認してください。異常振動・異常音がある場合は製品を使用してはいけません。販売店に修理を依頼してください。**

◆ 部品の脱落、飛散などの事故により、ケガや重傷を負う原因となります。

運転中は高温部、高電圧部に接触禁止

製品の運転中および停止後しばらくの間は、次の高温部や高電圧部に触らないでください。

- **❍ マフラ、スパークプラグ、ギヤケースなどの高温部**

◆ 高温部に触れると火傷します。



- **❍ スパークプラグ、プラグコードなどの高電圧部**

◆ 運転中に高電圧部に触れると感電します。



発火・発煙したらまず安全確保

- **❍ エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず身体から製品を離し、身体の安全を確保してください。**
- **❍ 周囲に類焼しないようにシャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。**

◆ あわてて対処しようとすると、火災やその他の傷害の拡大につながります。



排気ガスは有毒

- **❍ エンジンの排気ガスには、有毒なガスが含まれています。屋内など通気の悪い場所で製品を運転しないでください。**
- **❍ 屋内やビニールハウスなど通気の悪い場所で製品を運転しないでください。**

◆ 排気ガスによる中毒事故の原因となります。





点検・整備時はエンジン停止

作業後に製品の点検・整備を行なう場合は次の項目を守ってください。

- **❍ エンジンを停止し、エンジンが冷えてから点検・整備**

◆ 火傷を負う原因となります。

- **❍ スパークプラグキャップを外して点検・整備**

◆ 突然の始動により事故を起こすことがあります。

スパークプラグの点検

スパークプラグの点検では次の項目を守ってください。

- **❍ 電極やターミナルの摩耗、ガイシに亀裂がある場合は新品と交換**
- **❍ スパークプラグの火花を確認する発火テストは販売店に依頼**
- **❍ シリンダのプラグ孔付近での発火テストは禁止**
- **❍ 燃料がこぼれたり、燃えやすいガスがある場所での発火テストは禁止**
- **❍ スパークプラグの金属部に触れることは禁止**

◆ 引火による火災および感電事故の原因となります。





リコイルスタータの分解禁止

- **❍ リコイルスタータには強力なスプリングが組み込まれていますので、分解してはいけません。**

◆ スプリングがはじけて事故や重傷を負う原因となります。

安全にご使用いただくために

製品の取扱い

■一般的なご注意

警 告

取扱説明書

❍ ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。



◆ 事故や重傷を負う原因となります。

製品の使用目的以外の使用禁止

❍ 製品を取扱説明書に記載されている使用目的以外の用途に使用してはいけません。

◆ 事故や重傷を負う原因となります。

製品の改造禁止

❍ 製品を改造してはいけません。

◆ 事故や重傷を負う原因となります。製品の改造が原因で故障した場合は、メーカー保証の対象外となります。

点検・整備をしていない製品の使用禁止

❍ 点検・整備をしていない製品を使用してはいけません。定期的な点検・整備を必ず行なってください。

◆ 事故や重傷を負う原因となります。

製品の貸与、譲渡

❍ 製品を貸すときは借りる人に、取扱説明書と共に製品を貸してください。

❍ 製品を譲る場合は取扱説明書を添付して製品を渡してください。

◆ 事故や重傷を負う原因となります。

ケガへの備え

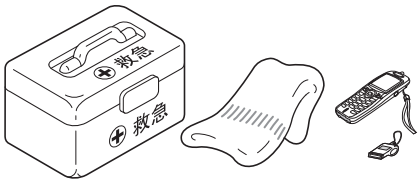
万一の事故やケガへの準備をしてください。

❍ 救急箱（応急手当用）

❍ タオルやてぬぐい（止血用）

❍ 呼子や携帯電話（外部との連絡用）

◆ 応急手当や外部への連絡ができず、症状が悪化する恐れがあります。



■作業上のご注意

警 告

製品の使用者

次の項目に該当する人は製品を使用しないでください。

❍ 疲労している人
❍ 酒を飲んでいる人
❍ 薬物を服用している人
❍ 妊娠している人
❍ 体調不良の人
❍ 取扱説明書を読んでいない人
❍ １６歳未満の人



◆ 事故の原因となります。

製品の使用環境・作業環境

次のような場合は製品を使用しないでください。

❍ 降雨時や落雷の恐れがあるとき
❍ 急傾斜地や足元が不安定で滑りやすい場所
❍ 夜間や視界が悪い場所

◆ 転倒や滑落、誤った操作などにより重傷を負う原因となります。

健康管理

❍ 健康のために、休憩を取りながら余裕を持って作業してください。

❍ 厚生労働省の通達は次の通りです。

１日の使用時間：２時間以内
１回の連続作業時間：３０分以内
１回の連続作業後の休止時間：５分以上

◆ 健康障害を受ける恐れがあります。

レイノー現象の症状に注意

❍ 指に不快感、赤み、腫れがあり、白くなったり感覚がなくなったことのある方は、製品を使用する前に医師に相談してください。

◆ 指にレイノー現象と呼ばれる症状が現れることがあります。

安全にご使用いただくために

⚠ 警 告

低速運転で刈刃が動く製品は使用禁止

- **スロットルトリガが低速位置で運転しているときに、刈刃が動く状態のまま製品を使用してはいけません。すぐに運転を中止し、キャブレタを調整してください。（25 ページの「キャブレタの調整」を参照）**

◆ 事故や重傷を負う原因となります。

刈刃の絡みつきはエンジンを停止して

- **刈刃に異物が絡まって動きが止まったときは、必ずエンジンを停止してから、絡まった異物を取除いてください。エンジンを停止せずに刈刃に手を近づけてはいけません。**

◆ 刈刃が急に動き出し、傷害を負う原因となります。

片手で製品操作は禁止

- **常に両手でハンドルを握り、製品を使用してください。片手で操作してはいけません。**
- **刈刃が動いているときには、絶対にハンドルから手を離さないでください。**

◆ 製品の保持が不安定になり、傷害を負う原因となります。

半径１０ｍの範囲は危険区域

製品を中心に半径１０ｍの範囲は危険区域です。作業中は次の項目を必ず守ってください。

- **危険区域へ他の人や子供、ペットなどを立入らせない**
- **危険区域に他の人が入った場合は、エンジンを停止し、刈刃を停止**
- **作業者に近づく場合は、危険区域の外から小枝を投げるなどの合図をして作業者に知らせ、エンジンの停止と、刈刃の停止を確認**
- **二人以上で作業する場合は、お互いに合図のしかたを決めて１０ｍ以上離れて作業**

◆ 刈刃との接触により、重傷事故を起こす原因となります。

異常時は直ちにエンジン停止

次のような場合は、直ちにエンジンを停止し、刈刃の停止を確認後、各部を点検してください。破損した部品は交換します。

- **作業中に刈刃が岩、立木、杭などの障害物に当たった場合。**
- **製品が突然に異常な振動をした場合。**

◆ 損傷した製品をそのまま使用すると、事故や重傷を負う原因となります。

製品を置くときは刈刃の停止を確認

- **エンジンを停止したときは、製品を地面に置く前に刈刃が停止したことを確認してください。**

◆ 刈刃が惰性で動き、傷害を負う原因となります。



移動時はエンジン停止

次のような移動時はエンジンを停止し、刈刃の停止を確認後に刈刃カバーを付け、マフラを身体から離してください。

- **作業場へ移動するとき**
- **作業中に他の場所へ移動するとき**
- **作業場から帰るとき**



◆ 火傷や重傷を負う原因となります。

- **車で運搬する場合は燃料タンクをカラにして、刈刃に刈刃カバーを取付け、製品が動かないようにしっかり固定してください。**

◆ 燃料を入れたまま車で移動すると、火災の原因となります。

安全にご使用いただくために

警 告

マフラのゴミは取除く

- **エンジンのマフラ周辺に覆い被さった草や葉、小枝などは、エンジンを停止し高温部に注意して取除いてください。**

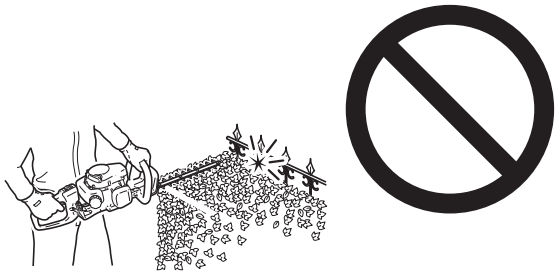
◆ **火災の原因となります。**



硬いものを切らない

- **針金や鉄板など、硬いものを切らないようにしてください。**

◆ **故障や事故の原因となります。**



はしごや台の上で使用しない

- **手を伸ばしたまま、あるいは足元が不安定な場所で製品を使用しないでください。**
- **はしごや台の上で使用しないでください。**

◆ **事故や重傷を負う原因となります。**



■保護具

警 告

保護具の着用

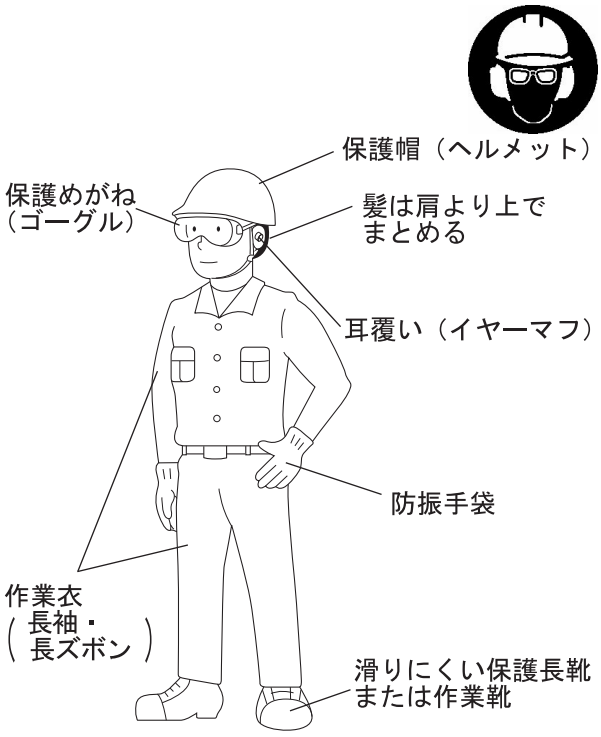
作業を行なう場合は、必ず下記の保護具を着用してください。ネクタイ、装身具は着用しないでください。

- **保護帽 (ヘルメット) : 頭部の保護**
- **耳覆い (イヤーマフ) や耳栓 : 聴力の保護**
- **保護めがね (ゴーグル) : 目の保護。めがねを使用していても、そのめがねの上から保護めがねを着用してください**
- **防振手袋 : 寒さや振動から手を保護**
- **身体に合った作業衣 (長袖・長ズボン) : 身体の保護。ボタン、ファスナをきちんとして、作業衣のすそは長ズボンに入れてください**
- **滑りにくい丈夫な保護長靴や滑りにくい作業靴 : 足の保護**

◆ **視覚障害、聴覚障害、重傷などを負う原因となります。**

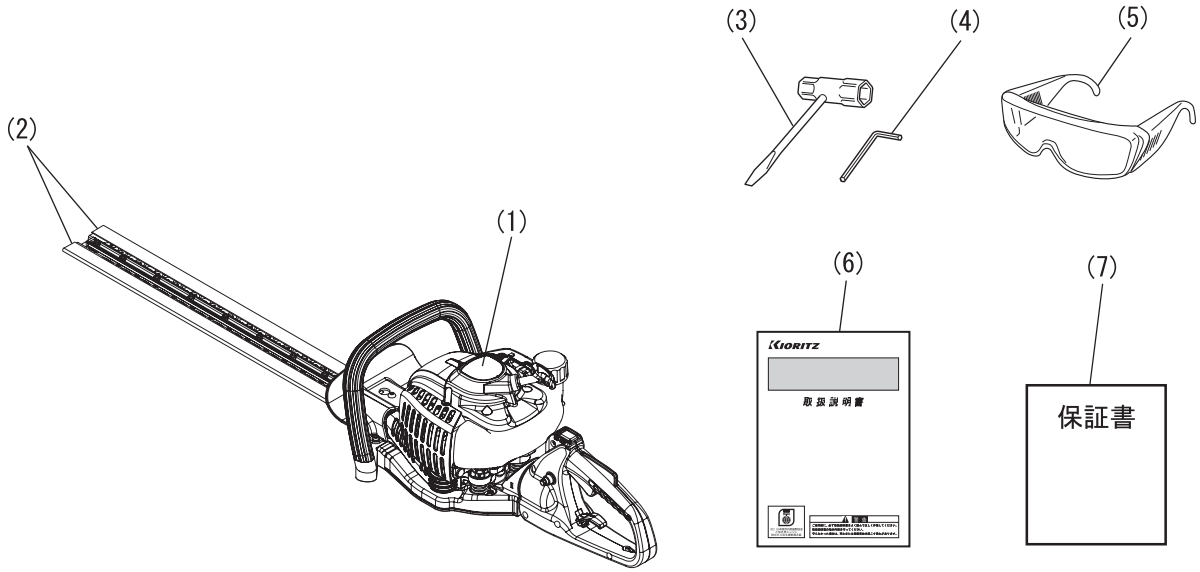
必要に応じて下記の保護具をご使用ください。

- **防じんマスク : 呼吸器の保護**
- **防蜂網 : 蜂の襲来対策**



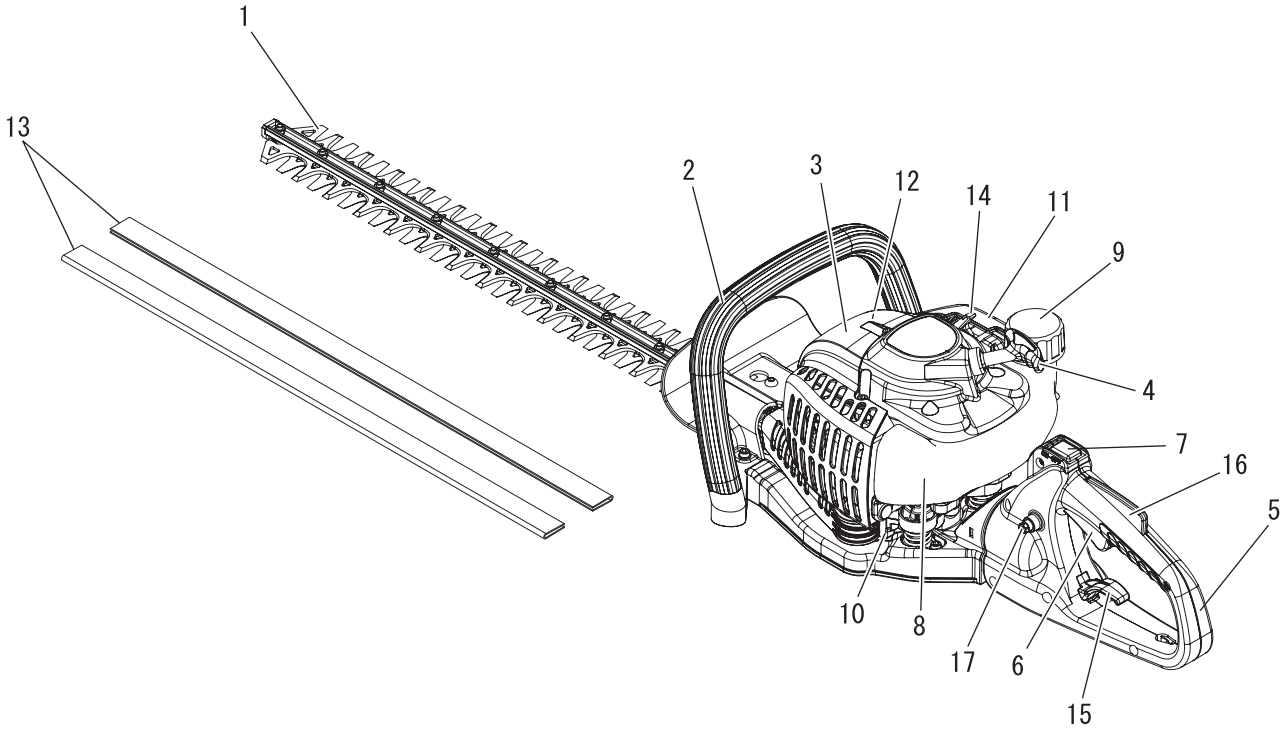
1. 梱包部品一覧

- 梱包箱の中には、下記部品が分かれて梱包されています。
- 梱包箱を解きましたら、中の部品を確認してください。
- 欠品や破損などがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。



番号	部品名称	個数
(1)	製品本体	1
(2)	刈刃カバー	2
(3)	ソケットレンチ（１３ mm ×１９ mm）	1
(4)	六角レンチ	1
(5)	保護めがね	1
(6)	取扱説明書	1
(7)	保証書	1

2. 各部の名称と機能



1. 刈刃	–	生垣・植込の剪定刈込みに使用する刈刃です。
2. 前ハンドル	–	刈刃側のハンドルです。
3. エンジンカバー	–	エンジンをカバーし、作業者が不用意に熱いシリンダやマフラに触れるのを防ぎます。
4. スタータグリップ	–	エンジンを始動するときに使用します。
5. 後ハンドル	–	エンジン側のハンドルです。
6. スロットルトリガ	–	エンジン回転数を調節します。
7. ストップスイッチ	–	エンジンを運転・停止させるためのスイッチです。
8. 燃料タンク	–	燃料を入れる容器です。
9. 燃料タンクキャップ	–	燃料タンクを密閉するふたです。
10. ギヤケース	–	動力を刈刃に伝達すると同時に、刈刃の組付部ともなります。
11. エアクリーナカバー	–	エアフィルタを防護するカバーです。
12. スパークプラグ	–	エンジンの頭部に組付けられ、燃料に点火するものです。
13. 刈刃カバー	–	製品の持ち運び、保管をするときに使用するカバーです。
14. チョークレバー	–	冷えているエンジンの始動時に燃料と空気の混合割合を調整し、始動性を良くします。
15. 回転ロックレバー	-	後ハンドルの回転をロックするレバーです。
16. スロットルロックアウト	-	スロットルトリガを誤って引かないように、スロットルロックアウトを押さなければ、スロットルトリガは引けないようになっています。
17. ファストアイドルボタン	-	エンジンが始動しにくいとき使用します。

3. 作業前の準備

3-1. 燃料の準備

危 険

燃料は非常に引火しやすいので、取扱いを誤ると火災の危険があります。本書の「安全にご使用いただくために」（6 ～ 7 ページ）記載の「注意事項」をよく読み、必ず守ってください。



◆ 燃料に引火して、火傷や火災を起こすことになります。

警 告

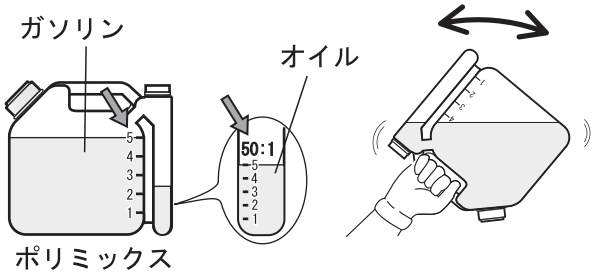
- **燃料を補給する際は手動式の燃料補給ポンプを使用し、機体が安定した状態で給油口からこぼさないように注意して補給してください。（電池式の灯油ポンプは使用しないでください）**
  製品に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。
- **燃料を補給する際は静電気の火花放電を避けるため、補給前に製品および補給用タンクを地面に数分間置くなどして、帯電している静電気をアースしてください。**
  また、作業者自身も手のひらを地面や金属に接するなどしてアースしてください。
- **燃料を補給した後は燃料タンクキャップを確実に締付け、必ず燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。燃料の漏れ、にじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**

◆ 燃料に引火して、火傷や火災を起こす原因となります。

重 要

混合燃料は劣化しやすいので、使用する分量だけ混合してください。燃料の混合は、製品の燃料タンクで行なわないで、ポリミックス（別売品）を使用して、よく混合してください。

■燃料



- **燃料はレギュラーガソリン（アルコール混入燃料はゴム製部品の劣化を早めます）と、２サイクルエンジンオイルを混合した「混合燃料」です。**
- **２サイクルエンジンオイルは ＪＡＳＯ 性能分類により「ＦＢ・ＦＣ・ＦＤ」の３種に分類され容器に表示しています。「ＦＡ」は ＪＡＳＯ の旧規格で定められていました。やまびこ純正２サイクル専用オイルは「ＦＣ」です。**
- **２サイクルエンジンオイルの種類により以下の比率で混合してください。**

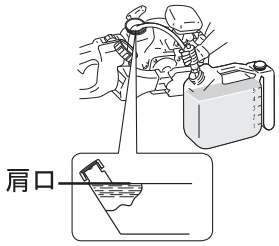
  ＦＣ・ＦＤ　　；［５０：１］
  ＦＡ・ＦＢ　　；［２５：１］

表１　２サイクルエンジンオイルの種類と混合比

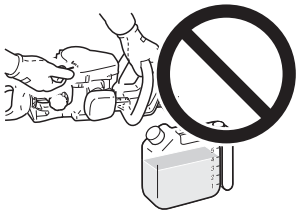
ガソリン (L)	２サイクルエンジンオイル（mL）	
	５０：１	２５：１
２	４０	８０
４	８０	１６０
５	１００	２００

3. 作業前の準備

■燃料補給



燃料は燃料タンクの肩口より上まで補給しない



燃料補給地でエンジンを始動しないこと

- **燃料の補給作業は、必ず風通しの良い所で行なってください。**
- **燃料の補給作業は、製品と補給用タンクを地面に置いて行なってください。トラックの荷台の上などでは行なわないでください。**
- **燃料は必ず燃料タンクの肩口以下に補給してください。**
- **燃料タンクには、外気との間に圧力差が生じています。燃料を補給するときは、燃料タンクキャップをすこしゆるめて、圧力差を取除いてください。**
- **燃料タンクのキャップを開け、手動式の燃料補給ポンプなどでこぼさないように混合燃料を入れてください。（電池式の灯油ポンプは使用しないでください）**
- **燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。ただし湿度が低いときは、乾いた布で拭くと静電気を帯びやすいので、水を湿らせた布で拭き取るようにしてください。**
- **エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から３ｍ以上移動してください。**
- **補給用タンクは火気のない日陰に置いてください。**

4. エンジンの運転

4-1. エンジンの始動

警 告

エンジンを始動する場合は、4 ページ以降「安全にご使用いただくために」記載の注意事項を守って正しく操作してください。

◆「注意事項」を守らないと、死亡を含む傷害や事故を負う原因となります。

注 意

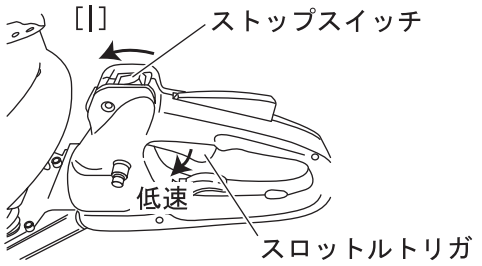
エンジンの始動時、スロットルトリガを低速の位置にしておいても、刈刃が動く場合にはキャブレタを調整して使用してください。(25 ページの「キャブレタの調整」を参照)

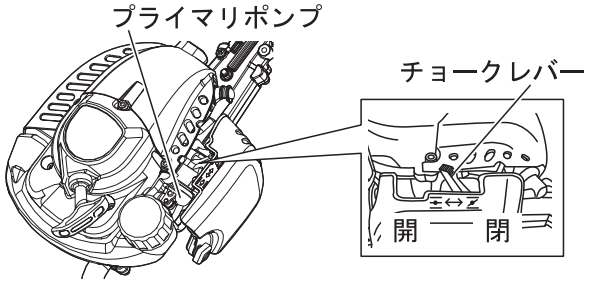
◆ 刈刃が動いてケガをする恐れがあります。

重 要

- **スタータグリップを引くときは、まず軽く引出し更に素早く引いてください。引きヒモの２／３以上は引出さないでください。**
- **スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。**
- **エンジン始動操作のときに最初の爆発音が聞こえたら、チョークレバーを戻して再度スタータグリップを引くと始動します。最初の爆発音を聞き逃さないようにしてください。**

■冷えたエンジンの始動



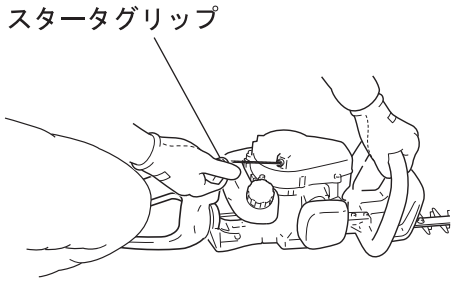


長期保管の後は、スパークプラグキャップを接続してください。
(28 ページの「長期保管（30 日以上)」を参照)

エンジンの始動には、冷えたエンジンの場合と暖まっているエンジンの場合があります。冷えたエンジンの始動は次のようにしてください。

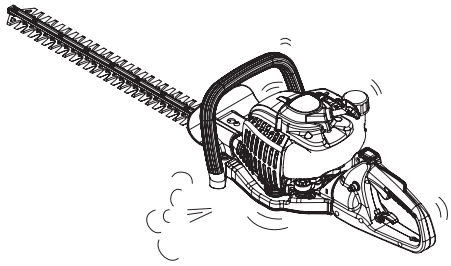
1. **刈刃カバーを外し、刈刃を点検してください。異常がある場合はお買い求めの販売店に修理を依頼してください。**
2. **製品を平坦な地面に置き、刈刃が地表や他の障害物に触れていないことを確認してください。**
3. **燃料が漏れていないことを確認してください。**
4. **スロットルトリガを「低速」の位置にしてください。**
5. **ストップスイッチを [|] の位置にしてください。**
6. **チョークレバーを「閉」(|↷|) の位置にしてください。**
7. **プライマリポンプ内に燃料が吸い上がるまで、プライマリポンプを押す・離すの操作をくり返してください。(目安５～１０回)**
   ※購入後初めて使用する場合、または長期保管後最初に使用するときは、上記の目安回数にかかわらずプライマリポンプ内に燃料が吸い上がるまで、プライマリポンプの操作は続けてください。

4. エンジンの運転



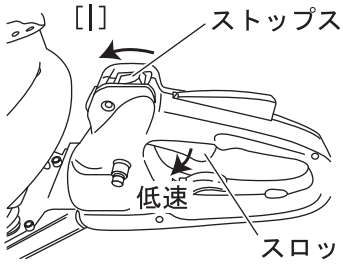
8. 周囲の安全を確認して、図のように左手で前ハンドルをしっかり握り、スタータグリップを数回引いてください。
9. 爆発音がし、すぐに止まった場合は、チョークレバーを「開」(⎮⎮)の位置にして、更にスタータグリップを引き始動させてください。
10. 上記 8. の操作ですぐにエンジンが始動したら、チョークレバーを徐々に「開」(⎮⎮)の位置に戻してください。

■エンジンの暖機運転

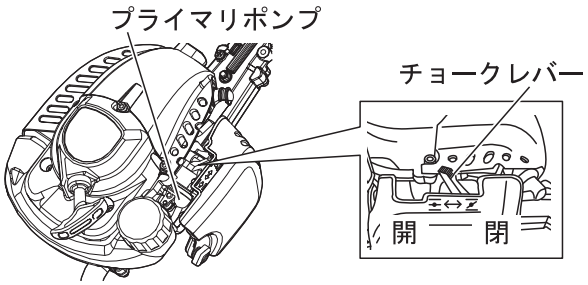


1. エンジンが始動したら、２～３分間、アイドリング（低速運転）で暖機運転を行ないます。
2. 暖機運転は、エンジン内部の潤滑を円滑にします。特に冷えているときは、十分に行ないます。

■暖まっているエンジンの始動

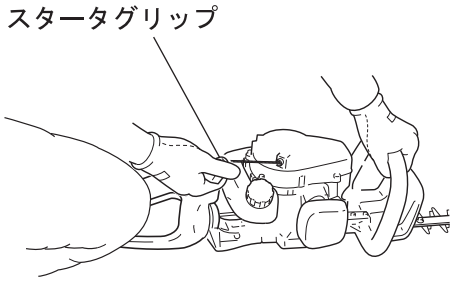


1. スロットルトリガを「低速」の位置にしてください。
2. ストップスイッチが [｜] の位置であることを確認してください。
3. チョークレバーが「開」(⎮⎮)の位置にあることを確認してください。



4. 周囲の安全を確認して、図のように左手で前ハンドルをしっかり握り、燃料が入っている場合はスタータグリップを引いてエンジンを始動させてください。

＊ 燃料がカラになっている場合は、燃料を補給し、プライマリポンプを押す・離すの操作をくり返してください。（目安５～１０回）



4. エンジンの運転

■始動が難しい場合

警 告

ファストアイドルボタン使用した状態で始動すると、刈刃が動き非常に危険です。あらかじめ、刈刃が地面や障害物に接触していないことを確認してください。また、そばに人やペットなどがいないことを確認してください。

◆ 事故や重傷を負う原因となります。

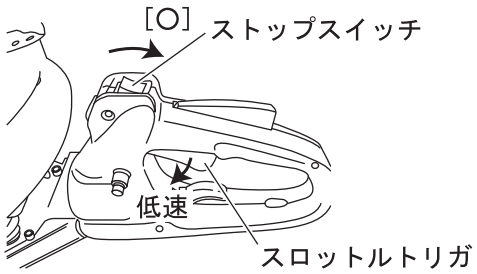


エンジンが非常に冷えた状態や、使用後でエンジンが非常に熱い状態で始動が難しい場合のみ以下の方法で始動してください。

(1) スロットルトリガを握ってファストアイドルボタンを押してください。スロットル開度が１／３程度開いて固定されます。
(2) リコイルスタータを引いてください。
(3) エンジンが始動したらスロットルトリガを少し握って固定を解除してください。

4-2. エンジンの停止

■エンジンの停止



1. スロットルトリガを「低速」の位置にし、エンジンをアイドリング（低速運転）状態にしてください。
2. ストップスイッチを [○] の位置にしてください。
3. 緊急の場合は、直ちにストップスイッチでエンジンを停止してください。
4. エンジンが停止しないときは、チョークレバー (15 ページの「冷えたエンジンの始動」を参照) を「閉」（ ）の位置にしてください。エンジンは失速し停止します。（応急停止）

＊ ストップスイッチでエンジンが停止しなかった場合は、製品を再び使用する前に、お買い求めの販売店にストップスイッチの点検と修理を依頼してください。

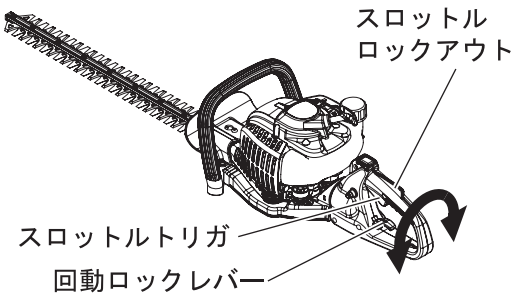
5. 剪定・刈込み作業

5-1. 後ハンドルの回動操作

警 告

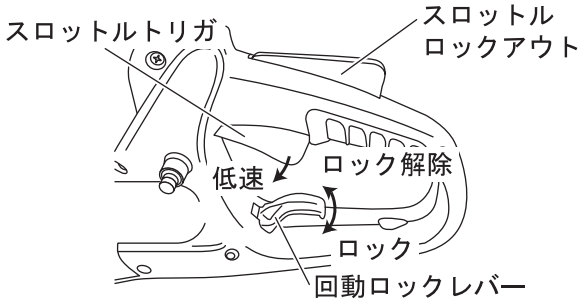
❍ 回動操作前には必ずエンジンを停止してください。

◆ コントロールが不安定になり、ケガの原因となります。



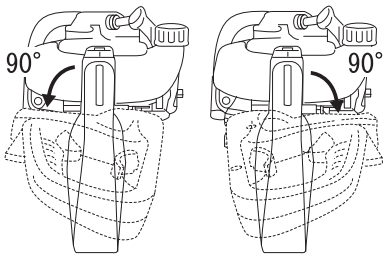
本製品の後ハンドルは、作業者が楽に快適な姿勢で生垣と植込みの剪定・刈込などの作業ができるよう回動することができます。左右それぞれ９０°でロックしますので回動位置を選んでください。

■操作手順



1. スロットルトリガから指を離し、低速の位置にしてください。

2. 回動ロックレバーを指でロック解除位置に持ち上げてください。



3. 後ハンドルを好みの位置（左右９０°）に回動させ、回動ロックレバーをロック位置まで戻します。

重 要

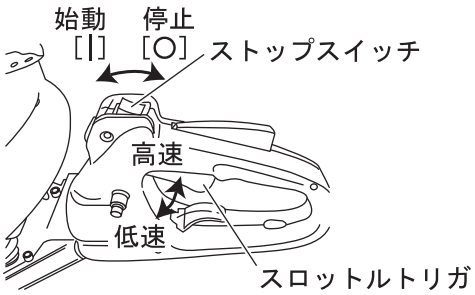
スロットルトリガが低速位置になっていないと、回動ロックレバーを解除しても後ハンドルは回転できません。

5. 剪定・刈込み作業

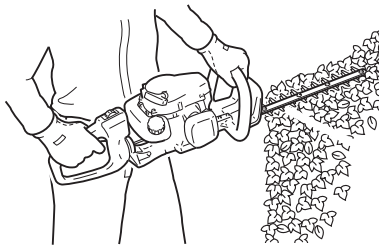
5-2. 基本的な作業方法

重 要

- **本製品は、枝の直径が6 mm 以下の低木あるいは生垣用に設計されています。**
- **刈込みを開始するときには、エンジンを高速回転させてください。低い回転速度で刈込むと、クラッチが滑り故障の原因となります。剪定・刈込み作業を行なわないときは、エンジンを高速回転させないでください。**
- **購入後はじめて製品を使用するときは、最初の２時間はエンジンの回転速度を、あまり上げないようにしてください。**



- **エンジン始動後スロットルトリガを握ると、エンジンの回転速度が上がり刈刃が動き始めます。**
  刈込む生垣などの量によって、回転速度を調節してください。
- **刈込みは刈刃を身体から外に向けて行なってください。刈刃を自分の方に向けたり、身体に近づけたりしないでください。**



- **生垣などの上の方を刈るときは、刈刃を左右に動かしながら刈込みます。刈刃をわずかに下へ向けながら動かすと、刈りそろえがうまくできます。**
- **横側を刈るときは、刈刃を下から上へ動かしながら刈込むと、刈りそろえがうまくできます。**
- **刈刃を木などに押しつけないでください。**
  刈刃の動きと速度に合わせて操作してください。

6. 点検・整備

6-1. 点検・整備の目安

お買い求め頂いた製品を調子よく安全にご使用いただくために、定期的に点検・整備を行なってください。

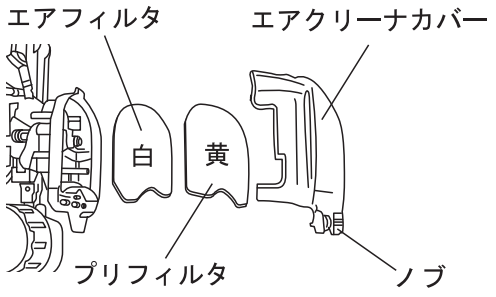
点検・整備時期	点検・整備箇所	点検・整備内容	参照ページ
使用前	マフラ	点検、清掃、増し締め	23
	ネジ、ボルト、ナット類	損傷と締まり具合の目視点検、 必要なら交換・増し締め	―
	エアフィルタ	清掃、必要な場合は交換	20
	燃料フィルタ	清掃、必要な場合は交換	21
	燃料系統	目視点検、異常がある場合は交換	21
	冷却風通路	清掃	21
	刈刃	損傷、切れ味、締まり具合の確認	24
エンジン始動時	スロットルトリガ	機能確認	15 ～ 19
	ストップスイッチ	機能確認	15 ～ 19
作業１８時間毎	ギヤケース	グリース注油	23
１ケ月毎	スパークプラグ	目視点検、必要な場合は交換	22
長期保管 （３０日以上）	燃料タンク	燃料をカラにする	28
	ネジ、ボルト、ナット類	増し締めなど	―

6-2. 点検・整備要領

重 要

- プリフィルタやエアフィルタが非常に汚れていたり、破損している場合は交換してください。
- エンジン冷却風の入口や、シリンダフィンにゴミなどが詰まりますと、エンジン焼き付きの原因となります。
- ご不明の点については、お買い求めの販売店にご相談ください。
- 傷が付いたフィルタやフィルタを取外したままでは絶対にエンジンを運転しないでください。ホコリやゴミなどによりエンジンが故障します。

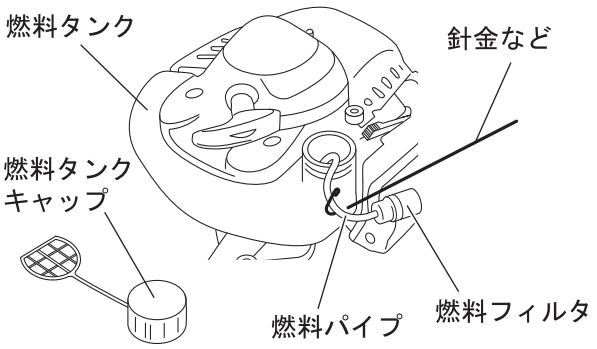
■エアフィルタの清掃



1. チョークレバーを「閉」の位置にしてから、エアクリーナカバーのノブをゆるめ、エアクリーナカバーを外してください。
2. プリフィルタ（黄）、エアフィルタ（白）を取外してください。
3. プリフィルタは軽くはたいてゴミやホコリを取除くか、中性洗剤で洗ってください。洗剤を使用した場合は、十分に水洗いをし、よく乾かしてください。
4. エアフィルタは、エアーガンを使用する場合、必ずエアフィルタの内側から外側に向けてエアーを吹き付け、ゴミやホコリを吹き飛ばしてください。エアーガンが無い場合は、はたいてゴミやホコリを落としてください。傷ついたプリフィルタ、エアフィルタは新品と交換してください。
5. プリフィルタ、エアフィルタを元の位置に取付けてください。エアフィルタをクリーナボディの形状に合わせて、奥まではめ込み次にプリフィルタも形状に合わせてはめ込んでください。
6. エアクリーナカバーを取付け、ノブを締めてください。

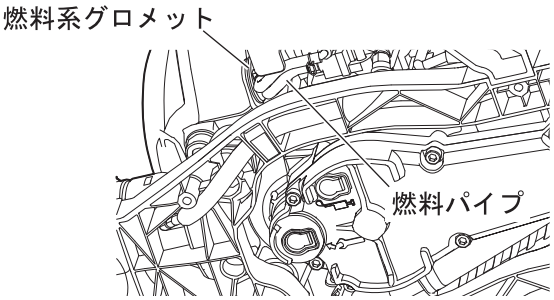
6. 点検・整備

■燃料フィルタの清掃



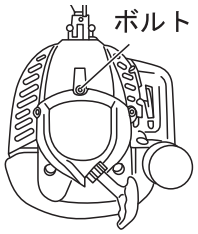
1. 燃料タンクキャップを外してください。
2. 針金などを使用して、燃料パイプに傷をつけないように燃料フィルタを燃料タンクの給油口から取出してください。
3. 燃料が劣化していたり、水分やゴミが混入している場合には、燃料を交換してください。
4. 上記 3. の場合にはタンク内や燃料フィルタ、燃料パイプも洗浄します。
5. 燃料フィルタ部分が黒く硬くなっている場合は汚れていますので、燃料パイプから古い燃料フィルタを取外し、新しい燃料フィルタと交換してください。
6. 点検・交換後は、燃料タンクキャップを確実に締付けてください。

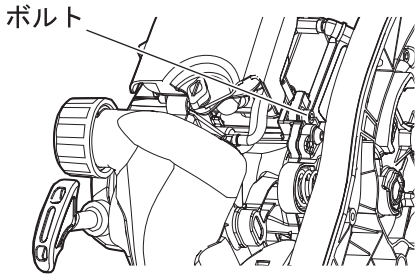
■燃料系統の点検

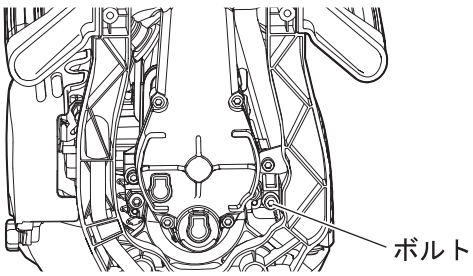


1. ご使用前に燃料を補給した後、燃料タンクキャップを確実に締付け、燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。
2. 燃料の漏れ、にじみがある場合は、火災の原因となりますので、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

■冷却風通路の清掃

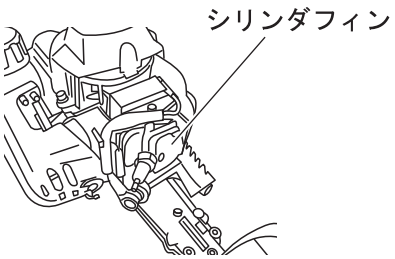




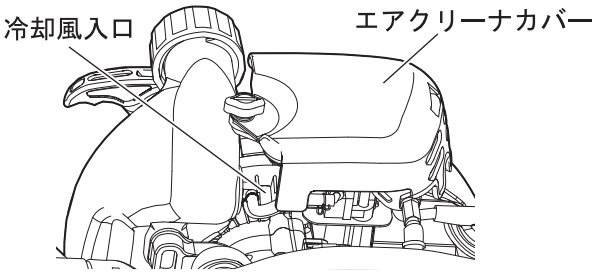


1. ボルト（3 本）を外し、エンジンカバーを外してください。

注 意
前ハンドルは外さないでください。



2. シリンダフィンの間のゴミと汚れを取除いてください。
3. もとどおりにエンジンカバーを取付けてください。



4. 冷却風入口のゴミと汚れを取除いてください。

＊ 冷却用の空気取り入れ口やシリンダフィンの間にゴミが詰まるとエンジンが過熱し、故障の原因となります。

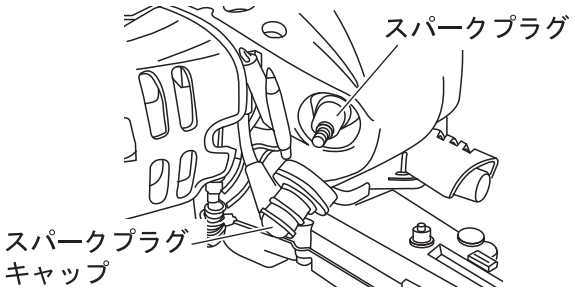
■スパークプラグ関連の点検

警 告

点検・整備を行なう場合は、エンジンが十分に冷えてから行なってください。
◆ 火傷を負う原因となります。

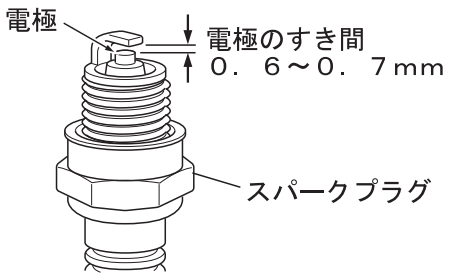
重 要

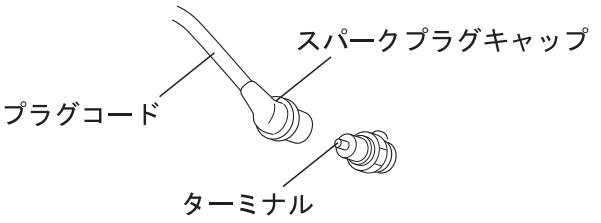
- **電極の腐食がひどい場合はスパークプラグを交換してください。**
- **スパークプラグは指定のもの以外を使用しないでください。**



1. スパークプラグキャップを外し、付属のソケットレンチ（１９ mm）でスパークプラグを外してください。

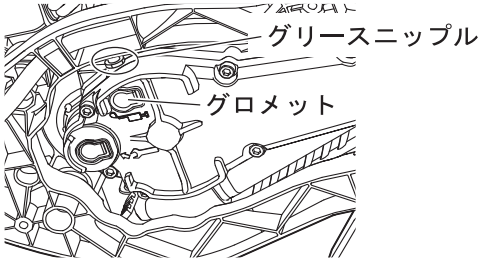
6. 点検・整備



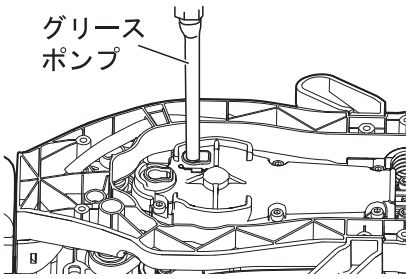


2. 電極やターミナルが摩耗しているとき、すき間が規定寸法（０．６～０．７ mm）でないとき、また電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは、新品と交換してください。
3. スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。
参考：締付けトルクは１５～１７ Ｎ・ｍ（１５０～１７０ ｋｇｆ・ｃｍ）です。
4. スパークプラグキャップの接続に異常がないか、プラグコードやスパークプラグキャップにヒビ割れ、ピンホールなどがないかを点検します。
5. スパークプラグを締め付け、スパークプラグキャップをしっかりと奥まで取付けてください。

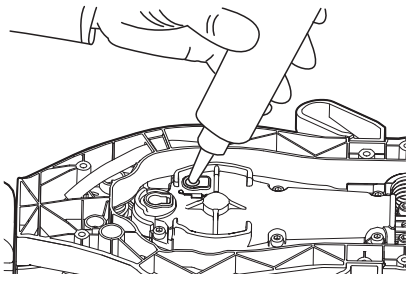
■ギヤケースの注油



1. グリースニップルまたはギヤケース底部のグリースマークの付いた側のグロメットを外した穴から注油することができます。



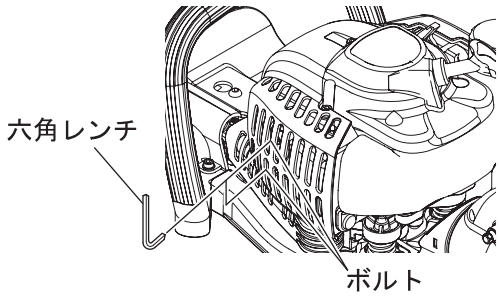
2. グリースポンプやグリースチューブの場合は、イラストのようにグリースマークの付いた側のグロメットを外してグリースを注入してください。



3. グロメットを外した場合の注油後は、グロメットをもとどおりに取り付けてください。

＊ グロメットは完全に奥まで取り付けられていないと、作業中に浮き上がって外れることがあります。
＊ グリースは、純正ギヤケースグリースかリチューム系グリース（＃２）を 30 g 程度補給してください。指定以外のグリースを使用すると故障の原因となります。

■マフラの点検



・ マフラの締付ボルトにゆるみがないか確認してください。ゆるみがある場合は、六角レンチで増し締めをしてください。

6. 点検・整備

6-3. 刈刃の手入れ

注 意

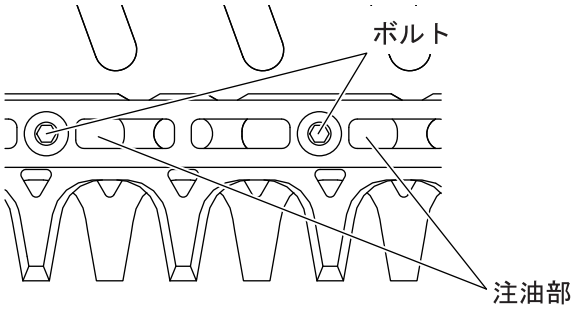
直接刈刃に触れないように、手袋を着用の上、作業をしてください。

◆ 傷害を負う恐れがあります。

重 要

- **上下の刈刃のすきまは、出荷時に刈刃下のボルトで調整してあります。自分で調整しないでください。**
- **刈刃の刃先が摩耗したり、上下の刈刃のすきまが狂うと、切れ味が悪くなります。その場合は、お買い求めの販売店に交換を依頼してください。**

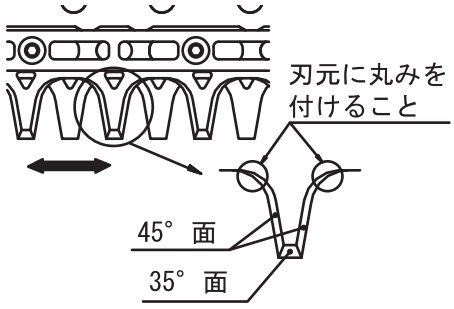
■刈刃の注油



刈刃を固定しているボルトまわりに、オイルを 2 ～ 3 滴づつ注油します。

＊ 雨水等で濡れた刈刃部を上向きにしたまま、置かないでください。ギヤケース内に水が入り込んでさびる原因になります。

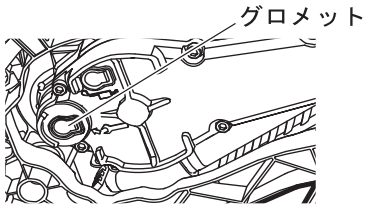
■目立ての方法



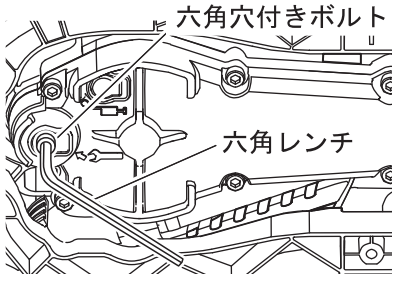
1. 平ヤスリまたは目立て機やサンダーで目立てを行なってください。刃元には必ず丸みを付けてください。

2. 上・下刈刃間に堆積したヤニを取り除くと切味が回復します。

＊ 刈刃が重なり合って目立てしにくいときは、下記のように刈刃を動かしてください。



1. ギヤケース底部のスパナ印の付いた側のグロメットを外してください。(シャフトに M5 で深さ 9 ㎜までネジが切ってあります)



2. M5 の六角穴付きボルトを用意し、取り付けてください。六角レンチでシャフトごとボルトを回して、刈刃を動かしてください。

3. 目立て後は、グロメットをもとどおりに取り付けてください。完全に奥まで取り付けられていないと運転中に浮き上がって外れることがあります。

6. 点検・整備

6-4. キャブレタの調整

⚠ 注 意

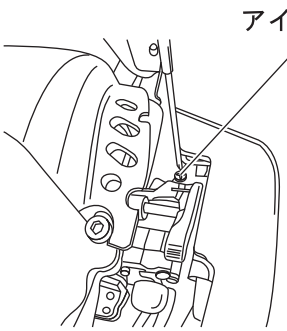
- **直接刈刃に触れないように、手袋を着用の上、作業をしてください。**
- **アイドリングの調整時には刈刃が動きます。刈刃の周辺に人または干渉物がないことを確認して行なってください。**

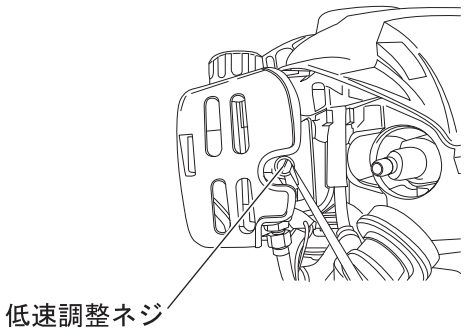
◆ **傷害を負う恐れがあります。**

重 要

- **工場出荷時にキャブレタはエンジンの性能を最も良く引出せるよう設定されていますが、次のような場合にはキャブレタの異常も考えられますので、お買い求めの販売店に点検と調整を依頼してください。**
  - **(1) エンジンが始動しない。**
  - **(2) 回転が持続せず停止する。**
  - **(3) 回転が変動する。**
  - **(4) アイドリング（低速運転）時も刈刃が動いている。**
- **キャブレタの調整は専門的な知識が必要です。不必要にキャブレタを調整しないでください。**
- **アイドル調整ネジ、低速調整ネジは締めすぎないでください。強く締めすぎるとキャブレタを破損します。**
- **アイドル調整ネジは、エンジンが停止しないように再調整してください。**

■キャブレタの調整





キャブレタ調整を行なう前に、エアクリーナの清掃／交換を行ない、エンジンを数分間運転してください。

❍ **アイドル調整ネジ**

(1) アイドリング（低速運転）の回転数を調整するときは、キャブレタ本体のアイドル調整ネジを回して調整してください。

(2) アイドル調整ネジを右に回すと回転が上がります。左に回すと回転が下がります。アイドリング回転数は 3000 ± 300 rpm です。

❍ **低速調整ネジ**

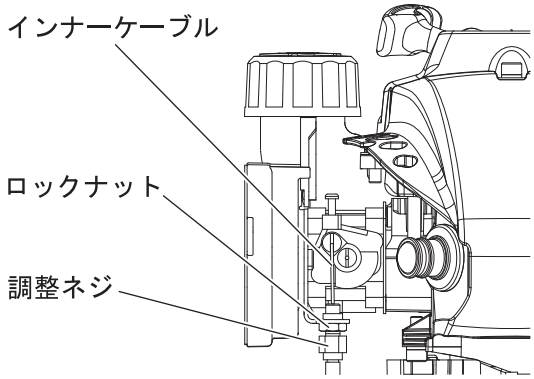
(1) 燃料と空気の混合割合が適正でない場合は回転不調となります。

(2) 回転不調の場合は、低速調整ネジを静かに回して調整してください。
調整の標準は、低速調整ネジを全閉にしてから、左へ $1 \pm {}^{1}/_{4}$ 回転戻してください。

＊ **調整してもエンジン回転不調の場合は、お買い求めの販売店へご相談ください。**

6. 点検・整備

6-5. スロットルケーブルの遊び調整



スロットルケーブルの遊びは、工場出荷時に調整してありますが、長時間使用すると伸びる場合があります。必要に応じて下記の要領で調整してください。

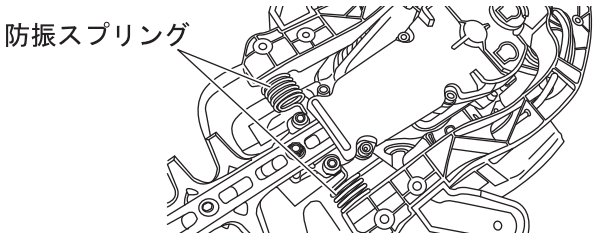
1. **スロットルケーブルの遊びは、スロットルトリガを低速の位置にして、インナーケーブルを押した時に、1～2 ㎜の遊びがあれば適正です。必要に応じて調整してください。**
2. **調整方法はロックナットをゆるめて、調整ネジを回して遊びを調整して、ロックナットを締めてください。**

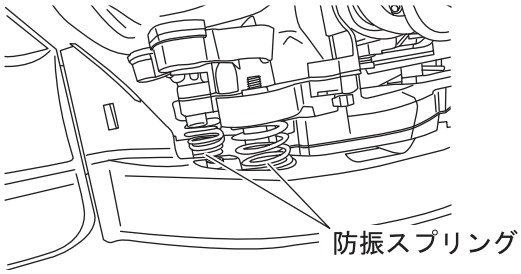
6-6. 防振スプリングの点検

注 意

❍ 防振スプリング（4個）にキズ、変形がないことを確認してください。

◆ 防振スプリングが破損したまま使用すると、事故や重傷を負う原因となります。





防振スプリングが破損していた場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

6. 点検・整備

6-7. 故障診断表

故障内容	故障診断	原因	対策
エンジンが始動しない		燃料が入っていない 燃料の吸込みすぎ 電気的障害 キャブレタ不良、内部固着 エンジン内部の故障	燃料補給 (14 ページ) 整備後に始動操作 販売店へ依頼 販売店へ依頼 販売店へ依頼
エンジンが始動しにくい、また回転が変動する	プライマリポンプ内に燃料が吸い上がる	燃料の変質 キャブレタ不良	新しい燃料に交換 販売店へ依頼
	プライマリポンプ内に燃料が吸い上がらない	燃料フィルタの目詰まり 燃料系統の目詰まり キャブレタ内部の固着	清掃か交換 (21 ページ) 販売店へ依頼 販売店へ依頼
	スパークプラグが汚れている、または濡れている	燃料の変質 電極のすき間が正しくない カーボンが付着している 電気的障害	新しい燃料に交換 交換 (22 ページ) 交換 (22 ページ) 販売店へ依頼
エンジンは始動するが加速できない		エアフィルタの汚れ 燃料フィルタの汚れ 燃料通路の詰まり キャブレタ調整不良 排気口・マフラ出口が詰まっている	清掃か交換 (20 ページ) 清掃か交換 (21 ページ) 販売店へ依頼 調整 (25 ページ) 清掃 (23 ページ)
エンジンが停止する		キャブレタ調整不良 電気的障害	調整 (25 ページ) 販売店へ依頼
エンジンが停止しない		ストップスイッチ不良	応急停止後、販売店へ (17 ページ)
アイドリング状態で刈刃が動く		キャブレタ調整不良 クラッチバネ破損	調整 (25 ページ) 販売店へ依頼
エンジンの回転をあげても刈刃が動かない		ギヤケース・クラッチの故障 刈刃の破損	販売店へ依頼 販売店へ依頼
切れ味の低下		刈刃の摩耗 クラッチのすべり	販売店へ依頼か刈刃の目立て (24 ページ) 販売店へ依頼

- 点検・整備には専門的な知識が必要です。ご自分で点検・整備や故障対策ができない場合は、むやみに製品を分解しないで、お買い求めの販売店にご相談ください。
- 表中に記載されていない故障の場合など、ご不明の点はお買い求めの販売店にご相談ください。
- 補用品や消耗品は、必ず純正部品または指定品を使用してください。他社部品あるいは指定品以外の部品を使用すると、故障の原因となる場合があります。

6. 点検・整備

6-8. 長期保管（30 日以上）

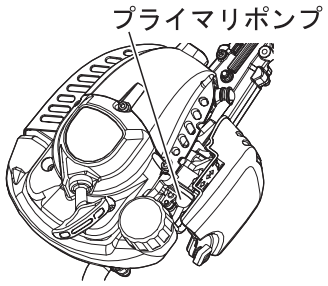
警 告

燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のあるそばに保管しないでください。

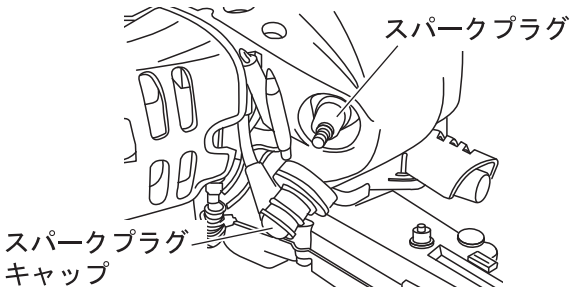
◆ 火災の原因となります。



製品を長期間（30 日以上）にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。



1. 本書に定められた定期的な点検をしてください。(20 ページ参照）損傷箇所がある場合は、修理してください。
2. 燃料タンクを完全にカラにしてくだい。
   A. 燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
   B. プライマリポンプを押す・離すの操作を数回くり返して、プライマリポンプの燃料を抜きます。
   C. エンジンを始動し、自然に停止するまで低速で運転してください。
3. 製品が十分に冷えてから、外側に付いたグリース、オイル、ホコリ、ゴミなどをきれいに拭き取ってください。
4. スパークプラグキャップを外したあと、スパークプラグを外し、その取付穴から適量（10 mL 程度）の、新しくきれいな２サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。
   A. スパークプラグの取付穴の上にきれいな布を掛けてください。
   B. スタータグリップを 2、3 回引いて、エンジンオイルをシリンダ内に行き渡らせてください。
   C. スパークプラグ取付穴からピストンの位置を確認してください。スタータグリップをゆっくり引き、ピストンが最も上のところで止まるようにしてください。



5. スパークプラグを取付けてください。（スパークプラグキャップは接続しないでください）
6. 製品が乾いた状態で、刈刃に刈刃カバーを取付け、エンジン部をビニール袋などに包み、子供の手の届かないホコリの少ない乾燥した場所に保管してください。

製品や部品を廃棄するときは、販売店にご相談するか、自治体の指導に従ってください。

7. 仕様

型式名		HTE600W
項目	単位	
質量		
本体（燃料、刈刃カバー除く）	kg	4.4
容量		
燃料タンク	L	0.4
外形寸法（刈刃含む）		
長さ×幅×高さ	mm	1065 × 250 × 195
刈刃		
形式		往復動方式
長さ		600
歯車減速比		4.6
潤滑剤		純正ギヤケースグリース
エンジン		
形式		空冷 2 サイクル単シリンダ
排気量	mL	21.1
最大エンジン回転数	r/min	9,700
キャブレタ形式		ダイヤフラム式
点火方式		フライホイールマグネト電子点火方式
スパークプラグ		チャンピオン RCJ8Y または NGK BPMR6A
始動方式		リコイルスタータ iスタート
動力伝達方式		自動遠心クラッチ
燃料混合比		[レギュラーガソリン：２サイクルエンジンオイル]
		FC，FD ；[50:1]
		FA，FB ；[25:1]

※ この仕様は予告なしに変更することがあります。

索 引

あ
ｉスタート 2
アイドリング ..... 16，17，25，27
アイドル調整ネジ 25
後ハンドル 12
う
後ハンドル 18
え
エアクリーナ 25
エアクリーナカバー ..... 12，20
エアフィルタ ..... 20，27
エンジンカバー 12
か
回動操作 18
回動ロックレバー 18
刈刃 ..... 12，24，28
かりは 24
刈刃カバー ..... 12，15，28
き
規定レベル 6
ギヤケース ..... 12，23，24
キャブレタ ..... 25，27，29
け
警告表示 ..... 4，5
こ
高温部 7
高電圧部 7
混合燃料 ..... 13，14
し
ＪＡＳＯ性能分類 13
消耗品 27
シリンダフィン 22
シンボルマーク 4
す
スタータグリップ ..... 12，15，16，28
ストップスイッチ ..... 12，17，27
スパークプラグ ..... 7，12，22，27，28，29
スパークプラグキャップ ..... 23，28
スロットルトリガ 12，15，16，17，18，19，26
せ
静電気 ..... 6，13
た
暖機運転 16
ち
チョークレバー ..... 12，15，16，17
て
低速調整ネジ 25
電極 ..... 7，23，27
に
２サイクルエンジンオイル ..... 13，28，29
ね
燃料 ..... 6，13，14
燃料系グロメット ..... 6，13，21
燃料タンク ..... 12，14
燃料タンクキャップ ..... 6，12，13，14，21
燃料パイプ ..... 6，13，21
燃料フィルタ ..... 21，27
は
排気ガス 7
発火テスト 7
ふ
プライマリポンプ ..... 15，16，28
プラグコード ..... 7，23
プリフィルタ 20
ほ
防振手袋 10
防じんマスク 10
防蜂網 10
保護具 10
保護長靴 10
保護帽 10
保護めがね 10
補用品 27
ポリミックス 13
ま
前ハンドル 12
マフラ 23
み
耳覆い 10
れ
レイノー現象 8

メ　モ

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-6181

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel 092-573-5361（代）

やまびこレンテックス株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-6777（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-014111
X750286-2501　　1009A 0237 ES

(C) 2009 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。